

令和5年度事業計画及び実施状況

1 収 集

＜令和5年度の取得状況＞

購入については、現在、作品を検討中であり、寄贈については、作品取得の調整中である。

2 保 存

年間を通して館内外の生物環境調査を行い、作品の保全に適した環境を維持していく。

- ・展示室殺虫：ブンガノン殺虫作業（7月15・16日）
- ・「Sense of Wonder」展において、作品一部にカビが発生したため、燻蒸処理を行った。

今年度は、プロムナード彫刻の保守を予定している。

3 展 示

(1) 令和5年度展覧会開催計画・実績

(令和5年7月9日現在)

| 展覧会名 | | 会 期 | 観覧者見込 (人) | 観覧者実績 (人) |
|-----------------|---------------------------|----------------------|-----------|-----------|
| 企画展 | センス・オブ・ワンダー ：感覚で味わう美術 | 4/18～7/9 (72 日間) | 7,000 | 16,605 |
| | 糸で描く物語 刺繍と、絵と、ファッションと | 7/25～9/18 (50 日間) | 25,000 | — |
| | 大大名の名宝 —永青文庫×静岡県美の狩野派展 | 10/17～12/10 (48 日間) | 12,000 | — |
| | 天地耕作展 初源への道行き | 2/10～3/27 (39 日間) | 5,500 | — |
| 収蔵品展（詳細は以下のとおり） | | | 12,000 | 2,156 |
| 計 | | | 61,500 | — |
| 移動展 | 小山町総合文化会館 | 9/3～9/14 (10 日間) | 10,000 | — |
| | 沼津市民文化センター | 9/22～10/1 (10 日間) | | — |

※収蔵品展

収蔵品を幅広くご覧いただくため、日本洋画や西洋絵画、現代美術等ジャンルごとテーマを設定して展示を構成する。令和5年度収蔵品展は次のとおり。

| 展覧会名 | 会期 |
|-------|-----------|
| 新収蔵品展 | 4/11～5/21 |

| | |
|---------------------------|-------------|
| 太田正樹コレクション展 | 5/23～7/9 |
| 美術館の中の書くこと | 7/25～9/18 |
| 版画でひもとく聖書と神話：デューラーからピカソまで | 10/17～12/10 |
| 静岡の現代美術と 1980 年代 | 2/10～4/7 |

4 教育普及

(1) 目的

県民の創作意欲に応える実技系事業及び学校と連携した教育普及プログラムを 実施するとともに、展覧会に関連した各種普及事業を開催する。

(2) 計画

| 事業計画 | | 事業見込み |
|--------------------------------------|---|--------------------------|
| 教育普及プログラム参加者総数 (実技・体験+講座・講義+学校連携) | | 10,347 人 ・プログラム数 30 本 |
| 実技・ 体験 | 県民の創作意欲に応える実技系事業の開催 (創作週間、えのぐ開放日、ねんど開放日、 わくわくアトリエ等) | 4,002 人 ・プログラム数 13 本 |
| 講座・ 講義 | 特別講演会、館長美術講座、フロアレクチャー等の開催 | 2,310 人 ・プログラム数 5 本 |
| 学校連携 | 美術館教室等の開催 (出張美術講座、学校向けギャラリーツアー、職場体験等) | 4,035 人 ・プログラム数 12 本 |

5 調査研究活動

(1) 学芸課研究会の実施

毎月 1 回のペースで学芸課職員による研究会を実施している。発表時間約 40 分の後、質疑応答約 20 分。研究会のテーマは自由に設定し、発表後は館長及び課員との質疑応答を行うことで、研究成果を共有し、有益な示唆を得る機会となっている。

(2) 美術館研究紀要の発行

2 本の論文を収録予定。

(3) 博物館実習の受入れ

8 月 7 日 (月) から 11 日 (金・祝) の 5 日間、10 大学 11 人の学生を受け入れた。

(4) 書庫・図書室の運営

図書ボランティア 42 名の協力により、今年度も昨年度なみに開室予定である。

新たに受け入れた図書については速やかにデジタルアーカイブへの登録・公開を行い、引き続きデータ数を増やしていく。

図書の購入に関しては、限られた予算の中で優先順位を整理して購入していく。

6 広 報

令和4年度に引き続き、様々な広報手段を活用し、教育機関、地域等と連携、協働を図りながら県内外への広報を推進する。企画展の共催者・協賛者等と協働した広域的な広報を目指す。

(1) 情報発信機能の強化

- ア ホームページ、フェイスブック、インスタグラム、ツイッターによる情報発信と、訪問者の情報解析等
- イ 展覧会等イベント情報のマスコミへの資料提供（記者投げ込み、プレスリリースの利用）
- ウ ポスター、チラシの配布、駅貼り、車内吊り
- エ 県広聴広報課との連携（県民だより、県公式アカウントによるLINE・ツイッター・フェイスブック・インスタグラム、ラジオ、静岡駅地下街ショウケース電照看板、包括連携協定による広報物掲示・配架等へのエントリー）
- オ ボランティア・広報サポーターへの情報提供
- カ 展覧会共催者（新聞社・テレビ局）、等との連携
- キ 企画展に関連する講演会・イベントを館内で行い集客を図る
- ク 美術館ニュース「アマリリス」の発行
- ケ インターネットミュージアム等の美術館・博物館情報サイトでの情報発信
- コ プレスリリース配信サービスを利用した国内メディア向けオンラインプレスリリースの配信
- サ 静岡県立美術館デジタルアーカイブの充実
 - ・作品作家情報の精度向上
 - ・デジタルアーカイブのコンテンツを利用した教育プログラムの充実
- シ ロダンウィーク
 - ・平成26年度にロダン館開館20周年を契機として立ち上げたロダンウィークを工事期間中であった令和3年度以外は継続して実施している。今年は令和5年11月3日（金・祝）～11月5日（日）に開催する。「ロダン賞コンサート」や草薙マルシェ実行委員会との協働による「丘の上のロダンマルシェ」などを実施し、ロダン館への誘客を図る。

(2) 教育機関との連携

ア 職員による教育支援等の講義

- ・静岡大学 出講（地域の人と文字文化、令和5年5月29日、6月5日）
- ・静岡県立大学 出講（特別講義 令和5年7月14日）
- ・静岡県立大学 出講（歴史から読み解くしずおか学B）

イ 県内大学の学生への広報

大学生の入場料が無料となる自主企画展において、県内大学の協力により各大学の学生に向けたメール又はポスターでの広報を実施する。

ウ 各学校の美術館利用促進

前年度末に、県内小・中・高・特別支援学校へ年間スケジュール・美術館教室のしおりを配布した。また、鑑賞のポイントなどを記載した企画展利用案内をウェブを通して提供した。

また、6月に小中高・特別支援学校・私立学校の教員対象のオンライン説明会に参加し、教育プログラムについて説明をした。また、8月には美術館において説明会を

実施した。

(3) 観光業界等との連携

ア 地域との連携

これまでの地域等との連携をさらに深める。

(ア) 県立美術館ボランティア

昨年度はボランティアの募集を行った。任期を1年として更新可能とすると同時に、対象年齢の下限を20歳から18歳に引き下げ、学生等の若年層にも参加しやすいものとした。選考と研修を行い、125名の方をボランティアとして登録した。

- ・活動期間（任期）：令和5年4月1日～令和6年3月31日（更新可能）
- ・活動方針：「来館者サービスの充実、美術館運営支援、地域連携推進」

(イ) 県立美術館友の会

友の会は、県立美術館の活動を後援することによって、芸術文化の向上を図ることを目的とする親睦団体である。友の会会員向けの学芸員によるレクチャー、館長講座、研修旅行などの行事を実施する。

(ウ) ムセイオン静岡

谷田地域の文化教育7機関（県立大学、美術館、中央図書館、埋蔵文化財センター、SPAC、グランシップ、ふじのくに地球環境史ミュージアム）が多分野における連携を進め、更なる文化の情報発信を目指す。

- ・ムセイオン静岡協働イベント「文化の丘フェスタ」の実施（令和5年10月17日（火）から11月5日（日）まで実施予定）

(エ) 草薙商店会等との協働

草薙地域で活動しているグループと連携して美術館前の広場でロダンウィークに「丘の上のロダンマルシェ」を開催（11月3日（金・祝）予定）

イ 企業との連携

- ・企画展における企業との連携
- 館内レストランにおいて、県産品を使用したメニューを開発し、提供する。

7 環境・施設整備

(1) 施設の適切な管理と快適な環境整備

中期維持保全計画に基づき修繕・更新を実施する。

- ・外壁タイル修繕、ラウンジ他窓サッシ改修、駐輪場他塗装修繕、荷受室他シャッター更新、送風機更新、消火ポンプ設備更新、レストラン空調機更新、吸収式冷温水発生機更新、ロダン館屋根シーリング修繕、車寄せスペース前床タイル修繕、

(2) 来館者の満足度向上の取組

従来、館内における水分補給は4箇所ある冷水機のみであり、来館者からゆっくりと水分補給ができる場所の設置について要望があったため、飲食を禁止していた情報コーナーにおける水分補給を可能とした。

8 運営

(1) 運営基盤の拡充（収入の確保）

「天地耕作 初源への道行き」展においては助成金を獲得できたため、より充実した展示にしていくことができる。

(2) 企業との連携強化による運営の充実

ア 静岡県経営者協会との連携

- ・各会員に対して展覧会スケジュールやチラシを配布し、美術館の理解促進を図る。
- ・館長が協会会員交流会において講演（9/1 浜松市、9/6 沼津市、9/12 静岡市）を行う。